

● ガンタケと菌根

ここにガンタケが発生しています。

ガンタケは大型のきのこで、傘の上には、褐色の鱗片が点在しています。

ガンタケは傷つくと赤く変色することが特徴です。ガンタケが所属するテングタケ科の多くの種は毒きのこです。



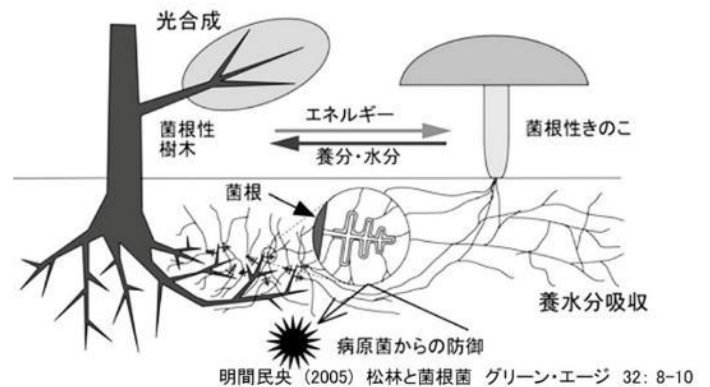
ガンタケ



ガンタケを切ると赤く変色した



ガンタケとシラカシがつくり出した菌根



菌根は、きのこにとっても、植物にとっても、メリットがある

菌根性きのこ(菌根菌)のはたらき

ガンタケの根元の土を掘ってみると、シラカシ（と思われる）の細根の表面がガンタケ（と思われる）の菌糸で被われていました。これが菌根(きんこん)です。

菌根では植物（ここではシラカシ）からきのこへ栄養分が移ります。一方、菌根菌（ここではガンタケ）は土壤中にも菌糸をはりめぐらし、土壤中から水分やリン、カリウムなどの無機養分を吸収して植物に与えています。植物と菌の双方にメリットのある関係になっています。

きのこは大きく二つに分けて考えることができます。

一つは腐生菌で、先ほど観察したように木材や落葉、土壤中の有機物（腐植質）を分解して栄養にします。

もう一つはガンタケのような菌根菌で、生きている植物の根と菌根と呼ばれる構造物をつくって共生関係を持ち、植物の根からブドウ糖などを吸収して栄養にしています。菌根菌には、マツタケ、ハツタケ、テングタケなど多くのきのこがあります。（根田仁）